

§ 専門批評 §

生徒氏名 _____ ○○○○

課題名 _____ 基礎心理学問題集 第 8 回

《概評》

* 基礎力 A B C D

* 習得力 A B C D

* 考察力 A B C D

* 表現力 A B C D

《総合評価》 A B C D

《講評》よくできています。 論述は、実験の理解を問われています。

詳しくは本文中の赤を参照すると共に、解答例をご覧ください。

60/70=86%

7 ステレオタイプ スクリプトは惜しいですね。スキーマのことです。なかでも典型的な偏りがあるのはステレオタイプ。典型的という意味になるとステレオタイプです。

31 因子 因子分析でいう因子というのは、どういうものか。質問紙の項目文章にも共通性が高いものは同じ因子の負荷が高いと考えます。

32 再検査

35 収束 尺度 A と尺度 B が同じようなものを測定しようとしているのなら、相関が高くなることを収束性があるという。

38 承認 承認欲求 人に認められたいという欲求

41 親和 親和欲求 人にやさしくしたい、やさしくされたいという欲求

49 係留効果

52 交換 社会的交換

53 比較 社会的比較

60 根拠 惜しいです！

論述

1) はフェスティンガーが理論として、なにを考えていたのか、この実験でなぜ、その理論が支持されると考えたのか、わかっていることが大切です。

思っていることと、整合性のないことを言うということは、認知的不協和が生じる。そうすると、不協和の不快感を緩和するように、言ったこと（変更できない）に思っていることが近づく。

どういう実験をしたのか？2群は、どちらも同じ条件で、作業したから、どちらも面白さの評価は同じはずだが、「おもしろい」と伝えることに対するバイト報酬が、高いほうは、低いほうに

比べて、

不協和から生じる不快感が少ないから、不快感を緩和する必要が少ないから、本当は、より面白かったとは思わない。

2) は、認知的不協和=不快 を仮定しなくても説明できる。お金を沢山もらってしたことは、お金のためだから、それを差し引くと、面白くはなかったと推論すると予想できる。

基礎／臨床

心理学問題集

答案用紙

第

8

回

氏名

○ ○ ○ ○

60/70=86%

直接、文字入力してください。

NO.	回 答	NO.	回 答
1	中心	26	公的自己
2	アッシュ	27	自己知覚
3	ハイダー	28	没個性化
4	(認知的) 均衡	29	動
5	フェスティンガー	30	内的整合
6	不協和	31	相関 × 因子
7	スクリプト ×ステレオタイプ	32	複数 × 再検査
8	帰属	33	内容的 ○ (または 表面的)
9	栄光	34	基準
10	セルフ	35	予測 × 収束
11	信憑	36	予測
12	スリーパー	37	自尊感情
13	ブーメラシ	38	社会的 × 承認
14	促進	39	役割
15	手抜き	40	成功
16	同調	41	成功回避 × 親和
17	アッシュ	42	ダーウィン
18	少数	43	ハロー
19	誤	44	ステレオタイプ
20	浸透	45	投影
21	分極	46	達成
22	リスク	47	予言
23	コーシャス	48	ピグマリオン
24	I	49	保留 × 係留効果
25	私的自己	50	中心

51	強	61	愛他
----	---	----	----

52	× 交換	62	情動的共感
53	× 比較	63	傍観者
54	バランス	64	権威
55	ロミオとジュリエット	65	服従
56	誤	66	フット
57	比較	67	フェイス
58	公平	68	ローボール
59	フラストレーション	69	証拠 × 根拠
60	バンデューラ	70	反抗

第8回 2月16日 社会的行動

1) フェスティンガーの認知的不協和の「1ドルの報酬実験」

フェスティンガーが学生たちに単調でつまらない作業のアルバイトをさせ、次に同じ作業をする学生にその作業の「楽しさ」を伝える。さらに作業に対する報酬額を、20ドルの大金と1ドルの少額の報酬をもらう2グループで実験を検証した。結果は1ドルのグループの方が大変楽しかったと答えた割合が多かった。これは、不快が高いため、それを解消するために態度に反する行動をしており、認知的不協和な状態であるといえる。

→作業をすることは、アルバイトではありません。つまらない作業なのに「大変楽しかったと言うことが報酬付きのバイトです」どちらも、「大変おもしろい」と伝える不整合性は同じなのに、不快感は報酬が多い人は少なく、認知的不協和が少なかったと考えられる。

2) ベムは1)の実験の論文を見て、自己知覚理論でも説明できると言ったことは有名です「自己知覚理論を紹介し、どのように説明しようとしたのか考えて述べなさい。」

私たちが常識的に考える『自分の内面心理・心的過程』も、実際には与えられた手がかり(外的・内的)をもとにして無意識的な推測過程を踏んで自己知覚しているという立場がベムの自己知覚理論となる。ベムの認知的不協和理論に対する説明は、自分自身の直接的な経験による認知的不協和だけでなく、他者の経験を間接的に観察することによってもその認知的不協和を知ることが出来るというところにある。⇒ベムはこの実験は、フェスティンガーが言うように認知的不協和を想定しなくても、自己知覚理論で、説明できると批判した。

3) アッシュの同調の実験

アッシュは、線分の比較判断課題を用いて同調に関する実験を行なった。まず、1人の被験者と7人の実験協力者の集団を作り、実験協力者にわざと間違える回答をさせた。すると、全施行で誤答は32%に上り、74%の被験者が少なくとも1回は誤った回答をした。また、実験協力者が3人のときに最も強い同調が生じ、それより人数が増えてもあまり変化はない。同調率は課題の重要性や困難度、集団凝集性が増すほど増大し、同調しやすい。⇒よく説明できています

～～感想・質問～～

今回、問題を解くのにすごく時間がかかりました。穴埋め問題もわからないことばかりでした。どこにも載ってない問題や調べ方のわからないものも多かったです。論述も三問ともまとめるのがとても難しく、ポイントが入り切れていないように思います。こんな答案ですが、添削・ご指導宜しくお願い致します。→深く理解することは必要ではありません、実験の工夫がわかればよいだけです。

(得点)	社会行動・社会心理学
1 中心 (central ⇔ 周辺 peripheral)	31 因子 (factor)
2 アッシュ (Asch 1907-)	32 再検査 (retest)
3 ハイダー (Heider 1896-1988)	33 表面
4 均衡 (balance theory)	34 基準
5 フェスティンガー (Festinger 1919-89)	35 収束
6 不協和 (cognitive dissonance theory)	36 予測 (predictive)
7 ステレオタイプ (stereotype)	37 自尊心 (self-esteem)
8 帰属 (attribution)	38 承認 (approval)
9 栄光 (栄光浴 basking in reflected glory)	39 役割 (role)
10 セルフ (セルフ・ハンディキャッピングself-handicapping)	40 成功 (success)

11 信憑 (信憑性 credibility)	41 親和 (affiliation)
12 スリーパー (スリーパー効果 sleeper effect)	42 ダーウィン (Darwin 1809-82)
13 ブーメラン (ブーメラン効果 boomerang effect)	43 ハロー (~効果 halo effect)
14 促進(社会的促進social facilitation 抑制inhibitionオルポート)	44 ステレオタイプ (stereotype)
15 手抜き(怠惰も正解) (social loafing ラタネ)	45 投影(project)
16 同調 (conformity)	46 達成
17 アッシュ (Asch 1907-)	47 予言 (approval)
18 少数(少数者の影響 minority influence モスコヴィツシ)	48 ピグマリオン
19 錯誤 (錯誤帰属misattribution シャクター)	49 係留効果
20 浸透 (社会的浸透理論 social penetration theory)	50 中心

21 極性 (集団極性化 group polarization)	51 強 (強化 reinforcement)
22 リスキー (リスキー・シフト risky shift)	52 交換 (social exchange theory)
23 コーシャス (コーシャス・シフト cautious shift)	53 比較 (social comparison theory)
24 I (I と me の I)	54 均衡(均衡理論 または 認知的整合性理論)
25 私的自己 (private self consciousness)	55 ロミオとジュリエット (~効果 Romeo & Juliet effect)
26 公的自己 (public self consciousness)	56 錯誤 (錯誤帰属 misattribution)
27 自己知覚(自己知覚理論self-perception theory)	57 比較 (comparison)
28 没個性化 (人バルドーの実験が有名です)	58 公平 (公平理論 equity theory)
29 動 (動因 drive)	59 フラストレーション (frustration)
30 内の一貫 (internal contingency)	60 バンデューラ (Bandura 1925-)

(答え No.61~70) 続き

61	愛他 (愛他的 altruistic)	66	フット (フット・イン・ザ・ドア法 foot-in-the-door)
62	共感 (共感性 empathy)	67	フェイス (ドア・イン・ザ・フェイス法 (door-in-the-face))
63	傍観者 (~効果 bystander effect)	68	ロー・ボール (ロー・ボール法 low-ball)
64	権威 (authority)	69	根拠
65	服従 (obedience)	70	反抗

第8回 論述問題の正答例

1) フェスティンガーの認知的不協和の「1ドルの報酬実験」 (200字)

認知的不協和理論では、態度(信念)と言動が整合的ないときは認知的不協和が生じ不快になり、不協和を軽減するように態度(信念)が変化するという事である。つまらない作業をした被験者は、次の人に「楽しかった」と言うよう強制させられた。報酬 20 ドル群はお金のためと正当化できるが、1 ドル群は正当化できず認知的不協和が大きいから、態度(信念)が変化し、面白いと評価した。

2) ベムは1)の実験の論文を見て、を自己知覚理論でも説明できると

言ったことは有名ですが、自己知覚理論を紹介し、どのように説明しようとしたのか述べなさい。

(200字)

自己知覚理論とは、自己の心理状態について、内的手がかりから直接的に感情(態度)を経験するよりも、外的な手がかりから感情(態度)を推測し、知覚することが多いという事である。「1ドルの報酬実験」では、20ドルをもらった人は、自分はお金のために嘘ついたと推測するから、本当はつまらなかったと評価する。1ドルもらった人は、お金のためではないのに「楽しかった」と言ったのだから、楽しかったのだと推測し、知覚する。

3) アッシュの同調の実験 (200字)

同調とは、同じ集団に属している人には成員が類似していることへの圧力があり、その圧力を感じて考えや行動を集団基準に一致させてしまう傾向のことをいう。アッシュ(1955)は自分の判断に自信をもち得る状況でも同調が起きると考え、線分の長さを比較判断する実験を行った。個別では誤反応率はきわめて少なかったが、5番目に答えるという条件では被験者の4割は、同調行動を示し、集団斉一性の圧力が働くことを示した。